

「補い合い学び合う」

～現在のてらこやのかたち～

現在の“てらこや”は昔と比べて、どんなふうに変化しているのでしょうか？

地域の特性などを踏まえ、地域ごとに特徴を持っています。

ただ塾のように勉強をするところではなく、地域の中で子どもを育み、居場所として活動されています。

三田市上井沢（広野小学校すぐそば）にある

「アットホーム「心」では…」

開所してもう2年たちます

2017年の春に「夜ごはん」と「勉強の時間」をセットにした、子ども食堂アットホーム「心」の前身となる居場所が誕生。現在では多いときに、小学生・中学生20名が学校帰りに立ち寄られます。

アットホーム「心」を始めるきっかけをお聞きしました

親がわが子に勉強を教えることは想像以上に難しい。「なんでこれが分からないの!？」とついイライラして、子どもにも辛い時間となってしまうたり、中学生ともなると、親側も分からず…。また仕事が忙しくなれば、気にかけてやることすらままならない。塾に通わせることができればよいが難しい。そんな家庭がたくさんあるんじゃないかなあ。

「心」でのエピソード

家に帰っても夜遅くまでひとりである。学校の先生から宿題に『出来てないシール』をびっしりと貼られていた子が、ここでは宿題をするようになりました。「宿題をする」と約束し、毎日声かけをすることで、家でもひとりで出来るように。親も子どもの勉強までを気にしてやる余裕がない…そんな中でも、そばにいて気にかけてくれる大人がいることで、子どものやる気や力を引き出してあげることができるんですね。



アットホーム「心」スタッフの岸本 大知さん

子どもたちの成績が上がったり、高校受験の合格もうれしいことですが、ここでみんなといっしょに過ごすなかで、将来自分がどうありたいか、どんな大人になりたいかをしっかり持つ人になってもらいたいです。

(岸本さん)
『ここは勉強することが楽しい場所』と思ってもらえることを意識しています。

(参加している子ども)
ひとりだと分からないままだけど、みんなと一緒にすれば、楽しいしがんばれる。